

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年4月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200077
法人名	社会福祉法人 希望ヶ丘福祉会
事業所名	グループホーム みどりの風
所在地	鹿児島県霧島市横川町中ノ5645-1 (電話) 0995-72-9054
自己評価作成日	平成27年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能ホームと併設しており、利用者様同士が自由に行き来出来る環境にあるため、交流を活発に行っている。これまでの暮らしを大切にしたい生活を送って頂くために、料理や裁縫、梅干しや味噌作り、菜園での野菜作りを行っている。毎日の活動も日によって、プログラムを変えるなど、生活がマンネリ化しないように工夫している。おやつは手作りにこだわっており、利用者様と一緒に作る事もある。季節に応じた行事も取り入れている。ボランティアを積極的に受け入れており、子供たちの福祉体験学習の受け入れにも協力している。敬老会をご家族をお呼びし行っており、食事は職員、家族合同で作っている。地域の方々の介護予防や生きがいづくりのため、地域のひろば事業を25年度から実施しており、地域の方々との交流を図っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、利用者個々人の生活歴や思いを把握して、菜園での野菜作りや梅干漬け、味噌作りなどを行い、その人らしい生活ができるように、支援に取り組んでいる。
- ・当法人の小規模多機能ホームが隣接しており、利用者も自由に行き来し、会話を楽しんでいる。災害時の協力体制もできている。
- ・地域の行事にも積極的に参加する一方、事業所の夏祭りなどの行事には多くの地域住民の参加がある。空き民家を活用しての地域交流がある。認知症の相談を受けたり助言をする等、地域福祉に貢献している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念は職員と話し合いながら作成した。事業所が掲げた理念が職員に浸透するように毎朝、ミーティングにて理念を復唱している。</p>	<p>職員で話し合っってつくった理念を事業所内に掲示している。ミーティングで唱和し、会議などの機会に確認し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。個別に目標達成計画を作り、それぞれ目標を立て、評価を定期的に行っている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域との繋がりが切れないように、運動会等の地域の行事や日中空き民家を活用し、地域で過ごす取り組みも行っている。地域のひろば事業を通じて、利用者を地域にお連れし、地域の方との交流を図っている。</p>	<p>地域の行事や清掃活動にも積極的に参加している。地域の空き家を活用し、日中は利用者も地域の一員としてそこで過ごし、地域住民も立ち寄るなど、交流を図っている。夏祭りなど事業所の行事にも地域住民の参加がある。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>公民館でビデオ鑑賞・健康体操・脳活性などで介護予防に取り組んでいる。認知症のイベントを地域で開催し、認知症の啓発活動を行った。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回実施している。日々の活動や課題などを報告し、助言して頂いている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の活動状況や外部評価の報告などを行っている。老人会会長や民生委員から地域情報を得たり、多くの助言を貰っている。会議での情報や提案を職員で共有して日々のサービス向上に反映させている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や各種連絡会を活用し、定期的に情報交換を行っている。また、市役所の福祉課に出向き、施設の現状を報告し助言を頂いている。</p>	<p>市の担当者には日頃から事業所の実情や事業報告を行い、情報を交換したり、アドバイスを貰っている。運営推進会議の出席や連絡会で連携を図っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の勉強会を行い、身体拘束の禁止となる事例を学び、身体拘束をしない介護を実践している。又、基本的に居室や玄関の施錠は基本的に行っていない。夜間は、玄関の施錠を行っている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会が中心で、定期的な勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。言葉も含めて拘束をしないケアを実践している。昼間の玄関は施錠せずひとりで外に出る利用者がいても、さりげなく寄り添い自然な対応をするようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の勉強会を行い、職員の意識統一を図っている。言葉の声かけにも注意し自尊心を傷つけないように配慮している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を活用している人はいないが、関連事業所で成年後見制度の対象者がいるため、活用方法を学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用前に重要事項説明を渡し、項目に沿って、説明をさせて頂いている。疑問点等、その都度、説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の声や苦情は、運営推進会議の委員の方に、報告させて頂いている。又、職員には朝礼や職員会議にて報告を行っている。</p>	<p>利用者からは生活の中で意見や要望を聞いたり、発語や状況、しぐさなど日常の中で気付いたことは「ケース記録」に記録して職員全員で共有している。家族には面会や行事参加時・運営推進会議などで意見を聞いたりしている。出された意見や要望等は職員で話し合い日々のケアに反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、日々の業務の中やミーティングを通じて職員の意見や提案を聞き、改善できるように努めている。施設での状況は、報告書等を利用し運営者にも報告している。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、報告や相談がしやすい雰囲気作りをしている。申し送りやミーティング時に気づきや意見・提案を聞く機会を設け、反映を図るようにしている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人一人が掲げている目標を確認し、職員の能力に応じた助言を行うようにしている。人事考課の評価に応じて昇給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や内部の研修会を通じて、資質向上を図る機会を設けている。外部の研修も各職員が参加出来るように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	霧島市地域密着型サービス事業者連合会等を通じて、交流を深め研修会も企画、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り利用者本人と話し、相手の思いや不安を聞くように職員一同心がけている。また話しやすいように居室で話を聞いたりする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から利用者の生活歴や家族の要望を聞くようにしている。又、面会時にも、相談を受けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅サービスを受けながら、自宅で生活が出来ないか、まず検討し、在宅での生活が無理であれば、施設入所になることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護者という立場ではなく、共に生活し、支えあう関係を大切にし、味噌作りや漬物、季節の料理等、利用者から教えて頂くという姿勢をもって、接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との関係を大切に、家族と過ごせる時間を大切にしている。家族の方に、夏祭り・敬老会・文化祭に参加していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活してきた自宅を使用し、日中、過ごす試みを行っている。その際に近所の方にも足を運んで頂き、交流を図っている。又、地域の行事にも参加し、交流を持っている。地域のひろば事業を通じて地域の方との交流を図っている。	隣接事業所を利用している知人のお茶のみや自宅で日中を過ごす取り組みでは近隣住民の来訪を働きかけるなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度の重い方が生活の中で孤立しないように、トラブルが起こる前に間に入るようにしている。茶話会を通じてみんなで話し合いの機会を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機関紙の発送や年賀状等で、交流を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中で出てくる何気ない言葉や表情を観察し、メモに残している。言葉で表現されない利用者には職員の観察から思いを代弁できるようにしている。	日々の関わりの中で、表情や言葉などから思いや意向の把握に努め、感じたことを個別ケースに記録している。職員間で話し合い、本人本位の支援に結びつくよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に面談を通して、生活歴や本人のこだわり等聞くようにしている。「私のアルバム」作りにも取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通しての観察、職員間の引継ぎ、記録の活用等、利用者の状態を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成は利用前に家族から情報収集を行い、その後は職員から情報収集を行い、計画書を作成している。また、サービス担当者会議等を通して、家族との情報交換を行っている。	本人や家族の意向を汲み取った上で担当者会議で話し合い、主治医の意見も取り入れ、個別にその人らしい生活ができるように介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、午前・午後・夜間と分け、時間帯ごとに記録を記入している。日々の様子の記録は介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、サービス内容を変更し柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域との交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にし、かかりつけ医と定期的に情報交換に努めている。又、変化がある時はその都度、受診や往診等、対応していただいている。	契約時に、本人や家族の希望するかかりつけ医を優先し、利用者や家族の同意を貰い対応している。専門医の受診は家族の状況に応じて支援している。緊急時の対応など連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	健康状態等についての助言を看護師から受けている。隣接する特養等の看護師にも気軽に相談し、連携を持っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院した際は、医療機関に訪問したり、電話でご家族に病状を確認している。入院前に主治医や家族と退院の可能性を検討し、退院後の受け入れが出来るように調整している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化や終末期のケアについては、ご家族及びかかりつけ医を交えて話し合いを行っている。医療面での関わりが多くなり、事業所での対応が困難になる場合は事前に説明し入院の場合もある。	契約時に、重度化や終末期に事業所が取り得る対応を説明し、同意を得ている。状況変化に伴い本人や家族の意向を確認し、主治医や家族と段階的に話し合っている。重度化の際は、ホームでできる限りのケアを行い、入院の場合もあることを話し合っている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	消防職員を講師にし、訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災の避難訓練は、夜間想定・日中想定として年2回行っている。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと、隣接の法人事業所と合同で昼夜間想定避難訓練を実施している。自主訓練で避難経路の確認や消火器の使い方なども行っている。地域住民の参加もある。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、非常時の食糧等の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は個々の尊厳を大切にしたい言葉掛けや対応を行っている。馴れ合いの関係になりすぎて、言葉が崩れないように注意をしている。	利用者への言葉かけは誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけ、職員間で注意し合っている。利用者の援助が必要な時も、本人の気持ちを大切に考えて留意している。個人記録等の取扱いにも管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に合わせた対応を行っている。個別に面談して気持ちを汲み取れるようにし、自分で気持ちを表現できない方にも、日頃の生活の様子から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間、入浴希望のある利用者の入浴を実施している。職員側の都合で入浴の時間を変えたりすることがある。行事等の予定が入っている時は事前に説明し、了解していただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に応じた洋服を着れるように準備をしたり、声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえやお箸配り、配膳・下膳・お茶碗洗い等、利用者の力を活かしながら、一緒に行っている。また、季節にあった料理を一緒に作っている。	利用者の嗜好に配慮した献立や食事形態を工夫している。事業所の農園で栽培した野菜や果物を利用者と一緒に採取し、食材の一つとしている。利用者の個々の力を活かしながら準備や後片づけを職員と一緒にしている。おやつ作りや季節の行事食など、食事が楽しみなものになるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録に残し、食事量が少ない時は栄養補助食品等を出している。水分は一日1500CCの摂取目標に水分を摂取してらもうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自力で出来ない利用者には、職員が必要に応じ支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	繊維のある食事、おやつの提供に心がけ、水分も取って頂く様にしている。又、リハビリ体操も取り入れ、体を動かす機会を作っている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、職員の声かけや誘導によるトイレでの排泄を大切にし、自立支援を促している。また健康管理をしながら食生活や運動を工夫し、自然排便を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維のある食事、おやつを提供に心がけ、水分も取って頂く様にしている。又、リハビリ体操も取り入れ、体を動かす機会を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は午前に入っていたくことが多いが、午後・就寝前入浴にも対応している。入浴は個々の状態に応じて個浴でゆっくりと入れるようにしている。	基本的には週3回、午前中入浴を計画しているが、個々人の体調や希望に添った入浴がいつでもできるように対応している。浴槽の湯を一人ずつ入れ替え、気持ちよく入浴ができるようにしている。入浴を拒む利用者には声かけや順番を変えるなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は自由にしてもらうようにしている。夜間は就寝時間は設けていない。眠れない方は、リビングにて、職員と会話を持っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に利用者の薬の把握を行っている。薬の仕分けは職員が交代で、二人で確認しながら、薬剤情報を基に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力や生活歴を活かした役割、楽しみが出来るように個別の状況に応じた支援を行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	洗濯物を干したり、庭いじりをしたりと外で過ごす時間を作っている。又、遠い所への外出を時々実施している。	日常的には近隣の散歩や菜園に出かけたり、ウッドデッキでの外気浴を行っている。外出の機会も多く、計画を立てて花見や「ふるさと交流」で空き民家で過ごしたり、家族の協力を得て外出や墓参・理美容院にでかける。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は金庫で管理している。買い物などでお金が必要な時は、本人に渡し、職員と一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に沿って、職員が仲介に入り、家族への電話は自由に出来るようにしている。手紙を出したい方は切手を購入し、自由に手紙のやり取りが出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には、季節を感じていただけるような草花を飾るようにしている。居室やトイレのドアの開閉時に音がしていたが、スポンジのクッションをつける工夫をしている。	共用の空間は換気や採光に配慮し音や温度・湿度が調整され、清潔である。廊下などには利用者の制作したものが飾られている。玄関には季節の花が植えてある。畳のコーナーやソファがあり、好きな場所で居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模多機能ホームと併設しているので、気分転換を図りたいときには自由に行けるようになっている。マッサージ機やソファにもゆったりと座ることが出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの品物を持ち込んでも良いということを説明している。又、部屋は椅子やテレビを持ち込んでも良いことを説明している。	居室はベッドやエアコン・クローゼット・整理タンス・加湿器が備え付けである。使い慣れたテレビや椅子・時計・写真などが持ち込まれ、落ち着いて生活できる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分からなかったり、失敗しても、決して非難せず、利用者の方が失敗したことを恥ずかしくないようにフォローをしている。自信を失うようなことがないように配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない